

5疾病・5事業及び在宅医療の記載内容(構成)について

1. ○○医療の現状と課題

(1) ○○医療の医療提供体制

(2) 圏域

2. 施策の方向

(1) 圏域

(2) 施策の方向性

① 目標値

② 施策

3. 目指すべき医療機能の姿 (表)

5疾病・5事業の計画構成案

(例: 救急医療対策)

次期計画の構成(案)

<基本構成の見直し>

「現状と課題」→「施策の方向」→「目指すべき医療機能の姿」の順で記載する。

第1 現状と課題

- 医療提供体制
 - 病院前救護体制
 - 初期救急医療
 - 入院救急医療
 - 救命期医療
 - 救命期後医療
 - 救急搬送体制
- 従来の医療連携体制の圏域

見直し案 1

「現状」と「課題」をまとめて、「現状と課題」とする。

※「現状と課題」の中で従来の医療連携体制の圏域の現状（認識、分析結果）と課題について記載。

第2 施策の方向

- 医療連携体制の圏域
- 施策の方向性
 - 目標値
 - 施策

見直し案 2

「施策の方向性」を「現状と課題」に対応させて記載。「施策の方向性」ごとに「目標」、「施策」を記載する。

※「施策の方向」において、新計画で設定する医療連携体制の圏域について記載。

(例) 施策の方向性

- 適切な病院前救護活動が可能な体制の構築

(目標)

目標項目	現状値	目標値	備考
救急救命士が同乗している救急車の割合	71.6% (平成23年度)	80.5 (平成28年)	全国平均を目指す
救急救命士の数	357人 (H24.4.1)	増加 (H29.4.1)	—

(施策)

- 救急救命士数及び気管挿管可能な救急救命士の充実にかかる取り組みを推進します。
- 地域メディカルコントロール協議会等における救急救命の人員及び質の確保に努めます。

第3 目指すべき医療機能の姿

見直し案 3

「各医療機能と連携」と、末尾の「〇〇医療の体制表」を統合し、「目指すべき医療機能の姿」とする。

指標一覧(救急医療対策に係る指標一覧)

見直し案 4

計画冊子の巻末から、疾病・事業毎の末尾に「指標一覧」を移動

現行計画の構成

第1 現状

- 病院前救護体制の現状と課題
- 初期救急医療の現状
- 入院救急医療の現状
- 救命期医療の現状
- 救命期後医療の現状
- 救急搬送体制

第2 医療機関との連携

- 目指すべき方向性

2 各医療機能と連携

- 病院前救護体制
- 初期救急医療
- 入院救急医療
- 救命期医療
- 救命期後医療

3 医療連携体制の圏域

4 課題

- 病院前救護体制の確保・充実
- 軽傷患者における初期救急医療施設の利用促進
- 入院救急医療体制の維持

5 数値目標と達成のための施策

表の中から、「施策」を独立させる。

※目標値を置かなくても施策を掲載可能にする。

課題	課題解決にあたっての数値目標			目標達成のための施策 ()内は担い手
	目標項目	現状	目標	
救急救命士が救急車に同乗することによる病院前救護体制の確保・充実	救急救命士が同乗している救急車の割合	71.6% (平成23年)	80.5% (全国平均) (平成28年)	・救急救命士数及び気管挿管可能な救急救命士の充実にかかる取り組みの推進(県、医療機関、消防機関) ・地域メディカルコントロール協議会等における救急救命士の人員及び質の確保(県、消防機関、MC協議会)
二次救急医療機関(病院群輪番制病院)の数	救急救命士の数	357人 (平成24年4月1日)	増加 (平成29年4月1日)	・救急医療体制の仕組みや本県の救急医療体制の現状を理解し、適正に医療機関を利用してもらうための普及・啓発の実施(県、市町村、医療機関、関係団体) ・救急医療情報システムの再構築(県)
医師の負担軽減のため、病院群輪番制による救急患者受入体制の整備	救急患者件数(外来)	17.8% (平成22年度)	22% (平成27年度)	・地球ごとの救急医療に係る現状や課題の共有や協議を実施(県、市町村、医療機関、消防機関、関係団体)
	二次救急医療機関(病院群輪番制病院)の数	20 (平成24年度)	現状維持 (平成29年度)	

救急医療の体制表

5疾病・5事業及び在宅医療以外の内容(構成)について

1. 現状と課題
2. 目標
3. 施策の方向と主な施策
4. 達成目標